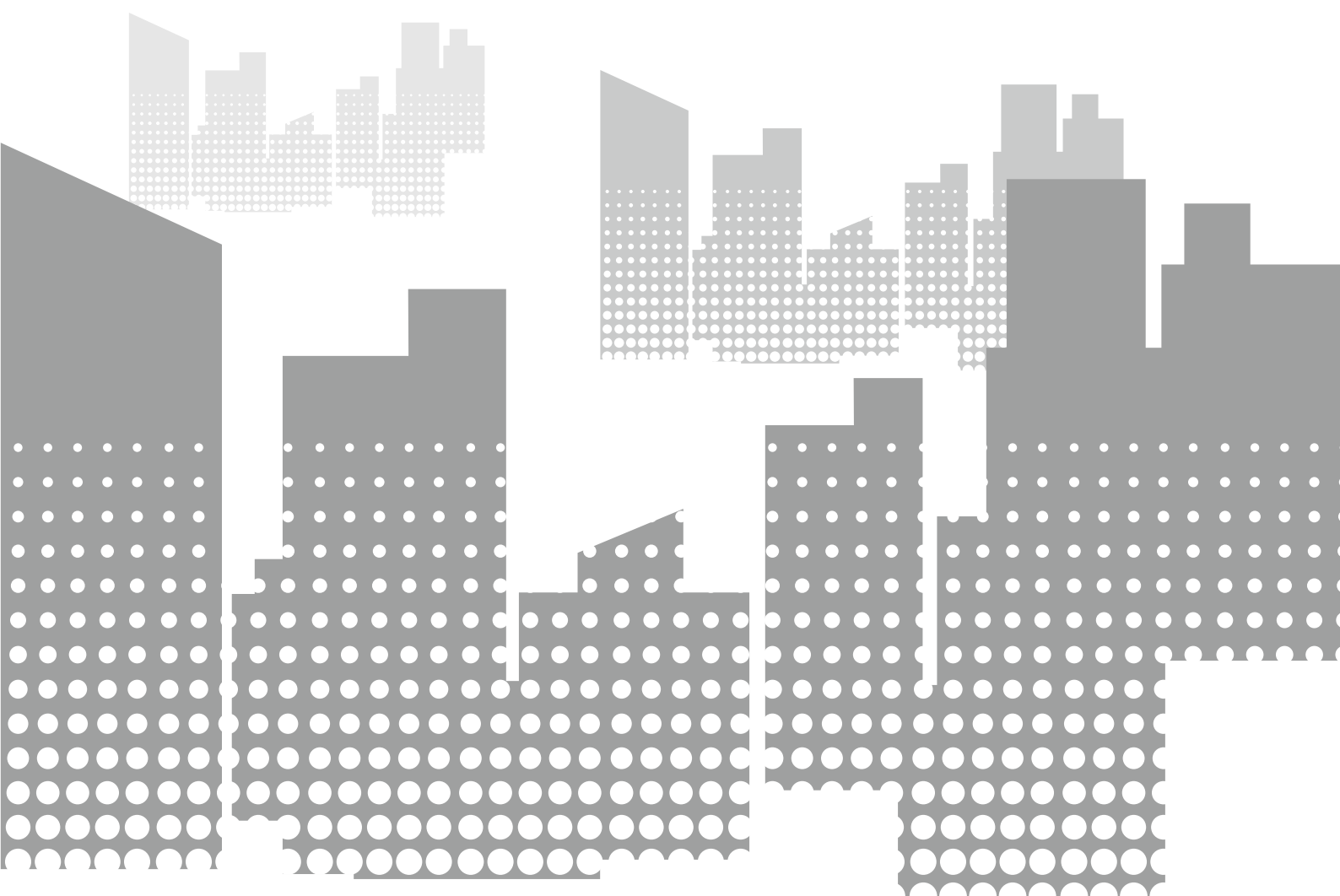


メサライト®

取扱説明書



日本メサライト工業株式会社

メサライト®

取扱説明書

目次

- 1. 製品の種類および荷姿 ……1
 - 2. 湿状品の保管と散水管理 ……1
 - 2-1 一般注意事項 ……1
 - 2-2 保管方法と注意事項 ……2
 - 3. 低含水品および絶乾品 ……3
 - 4. 安全面上の注意 ……3
 - 5. 使用上の注意 ……3
-

1. 製品の種類および荷姿

種 類		荷 姿
湿状品	粗骨材・細骨材・中骨材	バラ荷 (10t ダンプ) フレコンバック (約 1m ³)
低含水品 (含水率 5%以下)	粗骨材	ビニール袋 粗骨材 25ℓ
絶乾品 (含水率 0%)	細骨材 (カルドライ)	細骨材 20ℓ 中骨材 20ℓ

2. 湿状品の保管と散水管理

2-1 一般注意事項

軽量骨材の保管場所は、水はけが良く、日照、風当たりの少ないところで、ゴミ、泥などや有害物の混入を防ぎ易いところに設けてください。また、保管期間が長くなると表層から乾燥するので、骨材の表面が常に一様の湿潤状態になるように散水装置を取り付けて、骨材の表面の照りが消滅しない程度に散水養生してください。夏期または異常乾燥時期などの乾燥の激しい時は、粗骨材の場合、散水回数、量を増やしてください。(できればスプリンクラー散水装置をもった屋根付きのコルゲートサイロが望ましい。)

ただし、コンクリート製造直前の散水は表面水率のバラツキが大きくなり、コンクリート品質のコントロールが困難になるので行わず、表面水量が安定してから使用する配慮が必要です。

軽量骨材は、骨材自身の強度が普通骨材より弱いので、荷下し、盛り上げ、取り出しなどの作業の際、

骨材の上にトラック、ショベルローダなどの重量物が乗らないように配慮してください。

細骨材については過度な散水は避け、表面が乾かない程度に噴霧してください。

尚、一例として図-1・2に乾燥による吸水率の変化を、図-3に散水による吸水率の変化*の測定結果を示します。(※試験は、容積 30ℓ、高さ 50cm のポリ容器の上に雨滴散水装置を取り付けて、表面水率約 5% を 1 回 / 日 散水しました。)

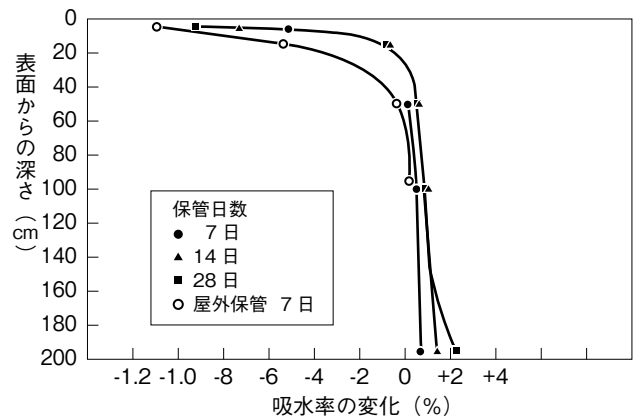


図-1 深さ方向の吸水率の変化

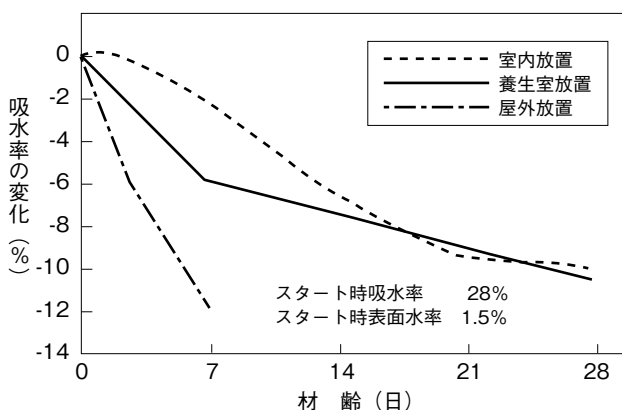


図-2 粗骨材表層部分 (10cm) 吸水率の経時変化

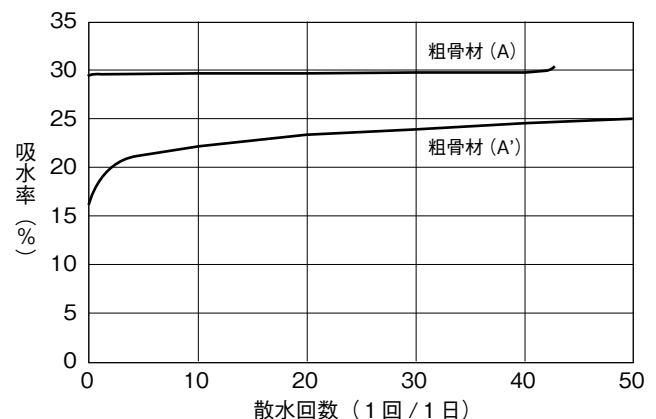


図-3 粗骨材の散水による吸水率の経時変化
(注) 粗骨材 (A') は粗骨材 (A) を気乾状態にしたもの

2-2 保管方法と注意事項

a) コルゲートサイロの場合

他品種との混合や異物混入が避けられ、特に人工軽量骨材の含水率の変化は少なくできるなど管理上の長所が多い。しかし、軽量骨材は、骨材粒の大きさによって比重が異なることがあるので、取扱いの際、分離を生じることがある。従ってコルゲートサイロの場合の取り出し口は数カ所設けるのが望ましい。

b) 貯蔵ビンの場合（散水設備なし）

バッチングプラント貯蔵ビンでの保管は、使用する量をその都度受け入れ、長期の保管は避けてください。

c) 屋外屋根付きストックヤードの場合

骨材の表面から水分の発散を防ぎ。吸水量が一定に保たれるようにし、粗骨材の積み上げ高さはなるべく低くして、分離を起こさないような配慮が必要です。

また、保管期間が長くなると表層から乾燥するので、スプリンクラーなどの散水装置を取り付け、散水養生してください。

d) 野積みの場合

コンクリート土間などの水はけの良い場所に存置し、風による飛散、異物の混入、ならびに骨材表面からの水分の発散を防ぐために養生シートで覆うなどの配慮が必要です。特に細骨材の場合は、所定の品質を確保するための保管が困難なため、極力避けてください。

e) 寒冷地における凍結防止策

寒冷地で冬期間、骨材の凍結防止や、氷雪の混入を防ぐために、シートで覆うなどの配慮が必要です。また、毎日シートを掛けはらずして、氷雪を取り除くことも必要です。一例として、北海道地区における冬季の保管実施状況を以下に示します。

1. スtockヤードは外壁コンクリートの内面に断熱材を張り付け、その上を鉄板で覆い、骨材表面は断熱シートで覆って表面部分の凍結を防ぐ。
2. スtockヤードの下のコンクリート部分は勾配をつけて水の切れを良くし、コンクリート上部にスチームを通し、床は鉄板張りとする。（従って骨材は鉄板の上に置く）
3. 加温は、骨材の雰囲気温度が0℃以下にならない程度とし、高温乾燥により骨材の水分が飛ぶことの無いように管理する。

3. 低含水品および絶乾品

低含水品の含水率は0～5%程度なので、バラ・フレコン詰め・ビニール袋詰めそれぞれ風雨等にさらされないように配慮してください。特にバラ荷の場合は風などで発塵し、また、飛散することがありますので、シートで覆うなどの配慮が必要です。

低含水品を用いてコンクリートを練り混ぜる際には、混練水を吸水するので、特段の注意が必要です。

絶乾品（含水率0%）は発塵し易いので、荷姿はフレコン詰め、ビニール袋詰めがお勧めです。

4. 安全面上の注意

a) 製品に関して

飛散した骨材の上を通行する場合、大変滑り易いので注意してください。また、絶乾品および低含水品を扱う場合は粉塵が出るので、防塵マスク・防塵メガネ・手袋等の保護具を着用し、取り扱いには十分注意してください。

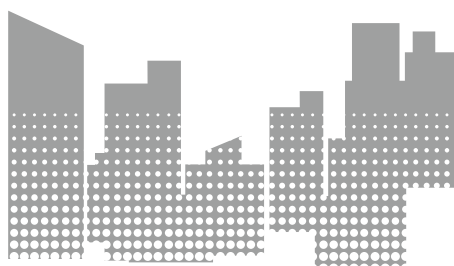
b) 包装容器に関して

（フレコンバックおよび小袋詰めの取り扱い）

1. フレコンバックをつり上げ作業中は、荷の下には入らないでください。
2. つり上げは、片つりにならないようにし、フックやフォークリフトの爪で袋を傷つけないようご注意ください。
3. フレコンバックを屋外保管する場合の使用期限は6ヶ月です。
4. 屋外保管の場合は、必ずカバー（シート等）をしてください。
5. ビニール袋品を取り扱う場合は、破らないように注意してください。
6. 包装容器は可燃物につき、火気に近づけないようにしてください。

5. 使用上の注意

1. この製品はコンクリート用骨材として使用する場合は、原則として、納品後速やかに（一週間程度）使用されることを前提としているので、長期保管した場合には含水率・表面水率を確認の上でご使用ください。
2. 袋物品の場合には、必要に応じて試験成績表を発行いたしますので確認してください。1日に複数袋を使用する場合は全量をよく混ぜてから使用してください。



日本メサライト工業株式会社

<http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/group/mesalite>

〒273-0017 千葉県船橋市西浦 3-9-2 TEL 047-431-8138 FAX 047-431-2464
E-mail: mesa@nm.mitsui-kinzoku.co.jp